

## 浄土宗日掌勸行式

### 一、香喝

願我身淨如香火  
念念焚燒戒定香

願我心如智慧火  
供養十方三世佛

### 二、三宝礼

一心敬札十方法界常住法  
一心敬札十方法界常住法  
一心敬札十方法界常住法  
一心敬札十方法界常住僧

### 三、四奉請

奉請十方如來入道場散華樂  
奉請眾迦如來入道場散華樂  
奉請弥陀如來入道場散華樂

(3)

(2)

(1)

奉請觀音勢至諸大菩薩入道場散華樂

四、懺悔偈

我昔所造諸惡業  
皆由無始貪瞋痴  
從身語意之所生  
一切我今皆懺悔

五、十念

六、開經偈

無上甚深微妙法  
我今見聞得受持  
願解如來真實義  
百千万劫難遭遇

(5)

七、四誓偈

我建超世願  
誓不成正覺  
普濟諸貧苦  
誓不成正覺  
  
我於無量劫  
不為大施主  
我至成仙道  
我至成佛道

(6)

(4)

(のりしろ)

名吉超十方  
離欲深正念  
為諸天人師  
消除三垢冥

究竟靡所聞  
淨慧修梵行  
神力演大光  
廣濟衆厄難

誓不成正覺  
志求無上道  
普照無際士  
開彼智慧眼

滅此昏盲闇  
功祚成滿足  
天光穩不現  
常於大衆中

閉塞諸惡道  
威曜朗十方  
為衆開法藏  
說法師子吼

日月戰重暉  
通達菩趣門  
廣施功德寶  
供養一切仏

具足衆德本  
如仏無礙智  
等此最勝尊  
虛空諸天人

願慧悉成滿  
通達靡不照  
斯願若剋果  
當雨珍妙華

得為三界雄  
願我功慧力  
大千応感動  
大千應感動

(9)

(8)

(7)

## 八、本誓願

弥陀本誓願 極樂之要門  
定數等回向 速証無生身

## 九、十念

十、元祖法然上人御遺訓一枚起請文

唐士我朝に、もひもひの智者達の、沙汰し申べるる觀  
念の念にもあらず。また學問をして、念のいじひを語  
りて申す念佛にもあらず。ただ往生極樂のためには、

南無阿弥陀仏と申して、うたがいなく往生するぞと思  
い取りて申す外には別の仔細候わず。ただし三心四修  
と申すことの候うは、皆決定して南無阿弥陀仏にて往  
生するぞと思ひしむり候うなつ。この外に奥ふ  
かき事を存ぜば、二尊のあわれみにはずれ、本願にも

(のりしる)

れ候うべし。念佛を誦せんべは、たゞこの世の法をよ  
くよべ事すとも、一丈六尺の燭鉢の身になして、尼入  
道の無縫のともがりに同じうして、智者のふるまひを  
せすしてただ一向に念佛すべし。  
証のためて眞相圖をもつし。

淨十帖の安心起居の紙に至極せり。虚空が所存、  
いの外に全く別義を存せず、滅後の邪義をふせがんが  
ために所存をしるし畢んぬ。

建暦二年正月十四日

大師在御判

(14)

## 十一、摸益文

光門遍照 十方世界  
念佛衆生 摂取不捨

(15)

## 十一、念佛一會

(のりしひ)

## 十三、總回向門

そつえいじやげ

願以此功德 平等施一切  
同發菩提心 往生安樂國

## 十四、十念

じゅうねん

願以此功德 平等施一切  
同發菩提心 往生安樂國

## 十五、總願偈

そつがんげ

衆生無邊誓願度 煩惱無邊誓願斷  
法門無盡誓願知 無上菩提願証  
自他法界同利益 共生極樂成仙道

(17)

## 十六、三唱禮

さんしょうらい

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

(18)

(のりしろ)

## 十七、送仏偈

請仏隨縁還本国  
願仏慈心護念

普散香華心送仏  
同生相勸盡須來

## 十八、十念

編集 淨土宗和歌山教区教化団

令和元年十二月 第一版

←おもて表紙の裏に貼る

【表紙ラベル】

